

資料館だより

2026.1.1 No.129 (季刊)

編集・発行 国立ハンセン病資料館



ハンセン病家族訴訟の熊本地裁前での勝訴発表（2019年）

ハンセン病家族の被害

2019年6月28日の家族訴訟判決の確定後に、ハンセン病問題対策協議会において、座長の厚生労働副大臣と統一交渉団代表との間で合意書が取り交わされた「確認事項」では、家族問題について、「ピア相談事業の拡充・広報も含め、全国的な相談体制の整備及び充実を図るべく、最大限努力する。」「国立ハンセン病資料館及び各地の療養所の資料館における家族訴訟及びその判決の内容・家族が被ってきた被害等に関する展示を整備する。」「家族関係の回復及び偏見差別の解消を図るため、家族交流会事業及び講師等派遣事業を着実に実施する。」「家族補償金に基づく補償金を受領していない対象者が今でも多数に上る現実を踏まえ、権利を有する家族が一人でも多く補償金を受領できるよう、最大限努力する。」などが謳われている。

確認事項の背景にあるのは、ハンセン病に係る偏見・差別である。家族訴訟判決は、「平成13（2001）年5月11日の熊本地裁判決以降はある程度解消された」としたが、「社会の差別意識」は熊本地裁判決後も解消されていないからである。

今も変わらない「社会の差別意識」のために「怯える生活」が続いている現状についても、声に出される人は多くはないが、「私は、ハンセン病の家族であったために、今も、気の休まる暇がありません。」「死んだらこんな思いをしなくてもいいと、今でも思ってしまうのです。」「私は、いまでも、偏見差別に対する不安、病気に対する恐怖心に怯えながら暮らしています。」などと訴えられている。

そこで、国によって「ハンセン病に係る偏見・差別の解消のための施策検討会」が2021年7月に設置され、最終報告が2023年3月にまとめられた。「ハンセン病に係る全国的な市民意識調査」も実施され、2024年3月に報告書がまとめられた。市民調査の結果を踏まえた施策が実施され、ハンセン病に係る偏見・差別の解消が進むことが期待される。

（内田博文・国立ハンセン病資料館館長）

当館では2026年1月から3月にかけて、「ハンセン病問題と家族」をテーマとする特別展（1月24日（土）～3月29日（日））、連続講座（全3回）を開催します。各開催概要はこの裏面。

「ハンセン病問題と家族」開催

今回は、「ハンセン病問題と家族」と題して特別展と連続講座を開催します。

特別展

1月24日（土）～3月29日（日）

国立ハンセン病資料館 1階ギャラリーで開催します

今回の特別展では、ハンセン病患者・回復者の家族4名の証言を紹介します。
2019年、ハンセン病家族訴訟の熊本地裁判決は、国の隔離政策が家族にも差別や偏見を生じさせたとして、国の責任を認め、原告家族への賠償を命じました。
この判決は、患者・元患者本人だけでなく、その家族も国の隔離政策による被害者であることを明確にした、画期的なものでした。
しかし、原告の多くは社会からの差別を恐れ、氏名を明かすことができず、匿名で裁判に臨みました。ハンセン病家族の問題は、決して過去のものではなく、いまでも続く現在進行形の課題なのです。



はやしから
林力さん

本展では、本名を明らかにして裁判をたたかった以下の4名の証言を紹介します。
林力さん（原告団長） 黄光男さん（原告副団長）
奥晴海さん（原告） 赤塚興一さん（原告・「あじさいの会」会長）

これらの証言を通して、ハンセン病家族訴訟の意義、家族が受けた被害、そして今後に残された課題について考える機会としたいと思います。会場では、4人の証言映像を上映し、証言をまとめた冊子を無料配布します。ぜひご来館ください。
(木村哲也)

連続講座

全3回（3日間）の開催です

※事前申込制、手話通訳あり（手話通訳申請は各回1週間前まで）

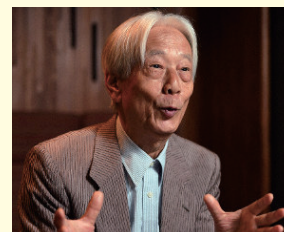
当館では、全3回の連続講座「ハンセン病問題と家族」を開催します。
国による誤った隔離政策と社会の偏見により、ハンセン病患者・元患者だけでなく、その家族も深刻な差別を受けてきました。
本講座では、「ハンセン病問題と家族」をテーマに、家族や専門家による講演、映像上映を通して、家族が置かれてきた実態を広く知っていただく機会とします。国と社会の一人ひとりが問題解決のために何ができるかを共に考えたいと思います。
(金 貴粉)



お申込みはコチラ



おおつきのりこ
大槻倫子氏（弁護士）



うちだ ひろふみ
内田博文（当館館長）

第1回 2026年1月24日（土）13：30～15：00

おおつきのりこ
大槻倫子氏（弁護士）「ハンセン病問題と家族訴訟」

第2回 2026年2月7日（土）13：30～15：00

講演：家族訴訟原告番号75番さん
ドキュメンタリー上映：「ハンセン病と優生手術 70年経て見えた実態」（朝日新聞社）

第3回 2026年2月21日（土）13：30～15：00

うちだ ひろふみ
内田博文（当館館長）「ハンセン病問題と家族、そして私たち」

ご案内 常設展示解説

学芸員が展示室2をご案内し、かつての療養所での過酷な暮らしを解説します。初めてハンセン病問題に触れる方にもおすすめです。



【日程（1月～3月）】 1月11日（日） 1月31日（土）
2月8日（日） 2月23日（月・祝）
3月14日（土） 3月28日（土） 3月29日（日）

【時間】 13時30分から30分程度

【定員】 各回先着20名（開始30分前から受付で整理券を配布）

ミュージアムトーク2025 第3回講座「歌を詠んだ『軍人癪』のご案内



まさいしろう
政石蒙「水尾 政石蒙遺歌集」
（青松歌人会、2010年）口絵より

ミュージアムトーク2025は、「戦争とハンセン病」を特集し、これまで十分に注目されてこなかった戦争の実相を通してハンセン病問題に迫ります。

第1回講座「沖縄戦と愛楽園―焼失した戸籍を再製させた愛楽園の人々」、第2回講座「戦争とハンセン病療養所のこどもたち」に続き、1月18日（日）に開催する第3回講座「歌を詠んだ『軍人癪』」では、兵役を経験した患者による短歌活動を取り上げます。本講座では、当館が開催したギャラリー展「戦後80年―戦争とハンセン病」（2025年、会期終了）の開催を通じて得た知見を展開し、立花誠一郎（邑久光明園）と政石蒙（大島青松園）が歌に込めた想いをたどり、ハンセン病問題における「軍人癪」の経験とは何かについて考えます。ぜひご参加ください。
(吉國元)

●第3回講座「歌を詠んだ『軍人癪』」

【講師】 吉國元（当館学芸員）

【日 程】 1月18日（日）14時～15時

【会 場】 国立ハンセン病資料館 1階映像ホール（定員130名 要申込）



お申込みは
コチラ

早稲田大学ワセダギャラリーで開催 館外展示「その壁の向こう側―写真が語るハンセン病問題の真実―」



ハンセン病療養所と入所者の貴重な写真を撮影した趙根在の作品とキャッチコピーを組み合わせてハンセン病問題の重要なポイントをお伝えする館外展示を、早稲田大学ワセダギャラリーで開催します。

関連イベントとして1月14日（水）17時から早稲田キャンパス15号館101号室にて、早稲田大学との共催でセミナーを開催いたします。詳細は確定後にホームページなどでお知らせいたします。

展示、セミナーともに学外の方のご参加が可能です。ぜひご来場ください。
(大高俊一郎)

【会 期】 1月14日（水）～1月27日（火）

10時～18時（初日は12時から、最終日は16時まで）

※日曜、祝日は閉室

【会 場】 早稲田大学ワセダギャラリー

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-1 27号館 地下1階

【参観料】 無料

【主 催】 国立ハンセン病資料館
（担当）事業部事業課



館外展示
お知らせページ
（資料館HP）

| 1月 | | | | | | | 2月 | | | | | | | 3月 | | | | | | |
|---------|---------|---------|----|---------|--------|---------|--------|---------|---------|----|---------|----|---------|---------|---------|----|----|---------|----|---------|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | 1 休 | 2 休 | 3 休 | 1 休 | 2 休 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 連 | 1 休 | 2 休 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 4 | 5 休 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 8 解 | 9 休 | 10 | 11 | 12 休 | 13 | 14 | 8 | 9 休 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 解 |
| 11 解 | 12 | 13 休 | 14 | 15 休 | 16 | 17 | 15 | 16 休 | 17 | 18 | 19 休 | 20 | 21 連 | 15 | 16 休 | 17 | 18 | 19 休 | 20 | 21 |
| 18 ミ | 19 休 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 連 | 22 | 23 解 | 24 休 | 25 | 26 | 27 | 28 | 22 | 23 休 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 解 |
| 25 | 26 休 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 解 | | | | | | | | 29 解 | 30 休 | 31 | | | | |

休：休館日

休：図書室休室日

ミ：ミュージアムトーク

連：連続講座

解：常設展示解説

：特別展「ハンセン病問題と家族」開催



ハンセン病家族訴訟弁護団編『家族がハンセン病だった 家族訴訟の証言』(六花出版、2018年)

図書室より

今回ご紹介するのは、『家族がハンセン病だった』(ハンセン病家族訴訟弁護団編、六花出版、2018年)です。2016年に提訴され、2019年に判決が確定したハンセン病家族訴訟の弁護団が、原告の意見陳述書や、訴訟の経過と現状をまとめたものです。

隔離政策によってハンセン病への恐怖心が^あ煽られた結果、療養所の外に暮らす家族までもが排除や迫害に^あ遭いました。その結果、家族の分断や結婚差別等の被害が生じたことが、ハンセン病家族による生々しい語りで綴られます。これらが今後も続く深刻な問題であること、その責任が、国や、社会に生きる我々にあることを強烈に訴えかける本です。

図書室では、ハンセン病家族への聞き書き集『ハンセン病家族たちの物語』(黒坂^{くろさか}愛衣^{あい}著)、『こんなことで終わっちゃあ、死んでも死にきれん』(福岡^{ふくおか}安則^{やすのり}著)、『ハンセン病家族の絆』(福西^{ふくにし}征子^{ゆきこ}著)、ハンセン病回復者の子どもとして生きた経験がおさめられた『父はハンセン病患者だった』(林^{はやし}力^{ちから}著)、『生まれてはならない子として』(宮里^{みやざと}良子^{りょうこ}著)など、ハンセン病家族について知ることのできる図書を所蔵しています。あわせてご利用ください。(長谷川秋菜)

管理運営団体からのお知らせ

厚生労働省主催「第25回ハンセン病問題に関するシンポジウム」をせんだいメディアテーク(宮城県仙台市)で開催します。高校生・大学生・教諭、松丘保育園入所者によるお話しを通じ、ハンセン病への正しい理解を深め、偏見や差別のない社会づくりに貢献することを目的としています。会場・オンライン参加者を対象にアンケート回答後学びを記録できるオープンバッジを希望者へ発行します。

□日時：2026年2月23日(月・祝) 13時～16時

□場所：せんだいメディアテーク

□申込：事前登録【会場参加/オンライン】(参加費無料)が必要です。

問合せ先 国立ハンセン病資料館内シンポジウム事務局



せんだい
メディアテークHP



事前登録は
コチラ

お知らせ

次号「資料館だより」(130号、4月発行予定)から、デジタル版での発行となります。当館HPから閲覧・ダウンロードが可能です。右のQRコードからご利用ください。



国立ハンセン病資料館 利用案内

■開館時間 9:30～16:30

■入館 無料

■休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■交通
・西武池袋線 清瀬駅南口より 西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分(「ハンセン病資料館」下車)
・西武新宿線 久米川駅北口より 西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分(「ハンセン病資料館」下車)
・JR武蔵野線 新秋津駅より 徒歩約20分

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13 TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981 URL <https://www.nhdm.jp/>

